

第1回研究推進体「ストレス」フォーラム

タンパク質恒常性システムと生理及び病理過程

日時: 2010年6月15日(火) 17:00 - 19:00

場所: 山口大学医学部基礎研究棟1階カンファレンスルーム

司会: 菅原一真(耳鼻咽喉科学)、藤本充章(医化学)

1. タンパク質ホメオスタシスの分子機構

林田直樹(医化学)

2. 音響傷害と老人性難聴

菅原一真(耳鼻咽喉科学)

3. 神経精神疾患

内田周作(高次脳機能病態学)

4. 幹細胞と組織の再生

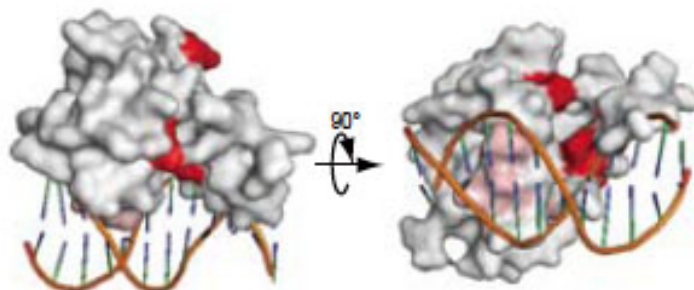
久保正幸(器官病態外科学)

5. 悪性黒色腫の制御

中村好貴(皮膚科学)

6. がん免疫

吉村 清(消化器・腫瘍外科学)



細胞は内外の環境変化が生じて、タンパク質や脂質などの構成成分の恒常性を保つための様々な維持機構を持っています。これらの対応機構を一般に細胞のストレス応答と呼びます。その機構を凌駕するストレスの負荷、あるいはその機構の破綻は様々な疾患を導くことが明らかになってきています。今回、タンパク質恒常性とその恒常性維持機構である熱ショック応答に焦点を当て、その分子機構の解明から、細胞の変性を病態とする疾患群、さらにがん等の病態解明と治療に向けた研究を紹介し、議論します。

興味のある研究者、大学院生、学部学生他、是非ご参加ください。

主催: 山口大学研究推進体「ストレス応答と関連した難治性疾患のための戦略」(事務局 医化学2214)